

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|--------------------------|
| 事業所番号 | 4070801867 |
| 法人名 | 有限会社 あざみ |
| 事業所名 | グループホームあざみ苑 (ユニット名 1号館) |
| 所在地 | 福岡県福岡市東区若宮4丁目2-48 |
| 自己評価作成日 | 平成24年1月24日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 公益社団法人福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成24年2月17日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の理解があり、小学校や中学校、保育園、子供会の子供達との交流会は毎年の恒例行事になっており、先方から受け入れの依頼をして下さる。ご利用者様も大変喜んで下さるので今後も関わりを断ち切らない関係づくりを続けていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に前経営者から引き継いだホームは、車の行き交う賑やかな町の中心部に位置している。認知症高齢者が第二の我が家として馴染みの地域で楽しく安心して暮らしているには、何が大切で、何が必要かを全職員で問いかげながら取り組んでいる。校区内の中学生や小学生・幼稚園児・子ども会等とは、地域の行事やホームの行事等で交流して楽しんでいる。有事の際には、ホームの向かいにある24時間営業のスーパーマーケットの従業員との協力体制ができています。利用者が地域で暮らし続けることを支えるための重要な拠点としての地域密着型サービスの更なる向上に期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関やリビングに理念を掲示し、共有して業務に取り組んでいる。利用者が地域と関わりを持てるよう地域行事に参加したり近所のスーパーに行くなど積極的に行っている。 | 「自分の親もここで看たい、そう思える介護」の思いをこめた理念を7項目に掲げているが、7項目の中に地域密着を示す内容が含まれていない。職員は理念について立ち止まって確認したり、カンファレンスではお互いに共有認識をもって話し合い、実践している。 | 子どもを中心に積極的に地域と関わっているが、さらに、地域密着型サービスの役割を明確にした理念作りについて今一度、職員皆で協議する機会を持つことが望まれる。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事には積極的に参加し、また、当苑でも催しを企画し参加していただき利用者が地域と関わっていると感じてもらえるように取り組んでいる。 | 町内会に入会し、地域で行われる夏祭り、どんど焼き、運動会等に参加しながら、地域との関わりを深めている。小学校3年生との交流も行っており、新年会やクリスマス、次の3年生へのバトンタッチ歓迎会をしている。地域に開かれたホームを目指している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 「認知症サポーター100万人キャラバンメイト」の養成講座を職員が受講し、メイトとなり「サポーター養成講座」を開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度運営推進会議を開催し、町内会長、子供会会長、地域包括支援センター職員、家族に参加して頂き、実施した取り組み等を報告している。要望や意見等は次の会議の時に改善点を報告しサービスの向上に努めている。 | 2ヶ月に1回の開催には、家族が2名～3名参加している。行政からは利用者の紹介、民生委員からは地域の状況等の情報をもらっている。利用者状況やホームの活動状況を透明性をもって報告している。出された要望や意見はサービスに活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域の包括支援センターとはその都度情報交換し、持ちつ持たれつの関係づくりが出来ていると思う。 | 地区のグループ協議会の会合では、市町村との交流の場となり、意見交換している。必要な連絡等を通して少しずつ関係性を深めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 徹底的に職員に教育を行い、正しく理解し、身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。 | 身体拘束をしないケアの実践には日頃から全職員で取り組んでいる。玄関は施錠せず、センサーで対応している。日々の接遇のなかでの言葉遣いや行動における禁止対象にはお互いに理解を深め、意識強化に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 行政からの研修などに積極的に参加し、言葉の虐待や日々のケアを全員が見過ごすことの無い様に不適切な対応はお互いが注意し合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度に関する研修に一部の職員が参加し、持ち帰り、全職員が熟知出来る様資料を作成している。 | 外部研修で学習したことについて伝達研修を行い、職員全員で共通認識するように取り組んでいる。現在一人の利用者が、成年後見制度利用を申請中である。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご見学の段階から当苑でのサービス内容等を出来る限り詳しくご説明し、ご理解いただいたうえで入居に至っている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会の際に職員が利用者の近況をお伝えすると共にケアについてご要望があればお聞きし、会議等で検討している。 | 玄関に設置している苦情箱を利用する人はいないが、家族の訪問時に職員から積極的に声かけしている。家族会を半年に1回開催し、意見や苦情をいつでも受け止める体制ができています。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 働きやすい職場環境作りに努めており、職員からの要望には耳を傾け、できる事は迅速に対応している。 | 管理者は、積極的に職員に話しかけて要望や意見に向き合っている。年齢の違う職員がそれぞれの人生経験から、様々な意見や提案があるがいずれにも対応できており、職員が働きやすいように配慮がなされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の生活状況や身体状況を把握し、個々に無理のない条件で働ける様配慮している。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 採用に当たっては年齢や経験よりも「やる気」を重視し選考している。入職後は個性を十分に発揮出来る職場環境にあると思う。 | 採用に関しては年齢や性別、経験等は問わず、特性を重視している。研修参加や資格取得においては積極的に応援体制ができています。採用後は職員一人ひとりの個性や趣味を活かし、生き生きと勤務している。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権研修には積極的に参加し、ミーティング時に勉強会を開催し、職員全員が人権について学べる機会を設けている。 | 管理者は、内部研修や月1回の会議、ミーティング等で人権に対する教育、啓発に取り組み、全職員に周知徹底に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の案内は必ず全職員に回覧し希望者優先で受講している。希望者が無い場合でも管理者が必要と認めた時は指名して受講させ、学ぶ機会を確保している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | Gh協議会に加入しており、協議会主催の勉強会や研修等にも積極的に参加しネットワークづくりを行っており困った時はお互いに相談できる関係づくりが出来ている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に本人とご家族に面談させていただき、要望や心配事等をお聴きし、理解したうえで安心してご入居に至れる様努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族の方と現状、困っている事等相談にのり話し合う機会を作っている。また、入居後の状況は電話や手紙等でお伝えし、安心していただけるように配慮している。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の要望を聴き、苑でのサービスがどこまで提供出来るか検討し、説明している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は日常利用者と過ごす時間が長い事から色々な会話やお手伝いを通して、お互いが気遣いながら生活しており、自然と家族のような関係を築いている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居前の本人と家族との関係を把握し、双方の思いを聴き、家族同士の関係が保たれるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前の友人や知人、家族が訪問しやすい様に開放しており、手紙や電話は積極的に受け入れている。また、利用者から家族へ書くお手紙の支援もしている。 | 入居時に馴染みの人や場所等を把握し、関係性を大切にしている。お墓参り、美容院、買物等、利用者の馴染みの関係が途切れないように支援している。日程や職員の勤務体制によっては家族にお願いし、実践できるように努めている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常生活の中で役割を持って頂き、利用者同士が助け合いながら暮らしている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居になられた利用者のその後の経過もご家族と連絡を取り合い、必要に応じて相談にのったり支援できるように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の思いや意向は日常会話の中から汲み取り理解するように努めている。困難な場合も表情や言葉の変化などに注意しその人らしく暮らせるように支援している。 | 職員は利用者の日常を注意深く観察するとともに、利用者に積極的に話しかけ、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者の生活歴や馴染みの暮らし等はご家族から情報を得て苑での生活に活かせるよう努めている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝のバイタルチェックは必ず行い、数字だけにとられず本人の表情や顔色等を重視するようにしている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議を通して利用者の現状やケアについて情報交換し、ニーズに合ったケアが出来る様職員全員が取組み介護計画を作成している。 | 職員は利用者1~2名を担当し、利用者の現状を常に把握している。本人、家族、看護師等とよく話し合い、利用者がその人らしく暮らせるよう介護計画に反映させている。また、体調等に変化があった場合は、現状に即した介護計画を作成している | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の介護記録は客観的に多岐にわたって記入し、毎月のカンファレンスにて職員間で実践、結果、気づきや工夫等を話し合い、情報を共有しながら介護計画の見直し等に活かしている。また状況に応じて話し合う機会を設けている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者や家族の要望に応えられるよう努めている。現在、自費でのデイサービス併用者や訪問マッサージを受けられている利用者もいる。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 毎月ボランティアの方を招いて様々なレクリエーションを提供してもらったり、四季折々の体験をしたり地域行事に参加する事で苑での生活を楽しんでいただけるように支援している。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携のクリニックと連携をとり週一回の訪問診療を通して利用者の健康状態を把握している。また、他科受診の際も家族との連絡を密に取り合い本人が適切な医療を受けられるよう支援している。 | 入居前からのかかりつけ医への定期受診は家族が同行しているが、体調に変化があった場合は、職員が対応し、受診結果や薬の内容等は家族に伝え、情報共有している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々のケアの中で利用者の体調の変化等必要に応じて提携のクリニックに報告、連絡、相談しており、担当医より適切な指示が受けられる体制づくりが出来ている。他科受診の際は担当医より情報提供を頂き的確な情報が繋がる様にしている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 近隣医療機関の地域連携室やソーシャルワーカーとの関係づくりはしっかりと出来ており、その都度必要な情報の交換や入退きの相談もお互い出来る関係にある。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した利用者「今必要な事」と「苑でできる事、できない事」を段階に応じてご家族に説明し理解を得ている。必要であれば協力医療機関にも協力を仰ぎ、入院、治療を検討していただく。 | これまでにホームで看取りを行ったことはないが、本人・家族と十分に話し合い、希望があれば医療関係、家族の協力を得て終末期の受け入れ態勢を整える予定である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時は提携クリニックと連携をとり迅速に行っている。また、応急手当の対応方法は救命救急講習を受講し職員全員が対応できるようにしている。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年3回の避難訓練を通して全ての職員が利用者の避難が出来るよう取り組んでいる。また、近隣のスーパー等にも協力を仰いでいる。 | ホームは3階建のビルの中に入居している。災害時にはホーム以外の居住者及び3階に居住しているビルのオーナー、道路を挟んで向かい側にある24時間営業のスーパーマーケット従業員も駆けつける等、協力体制ができています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 年配者に対する敬意の念を持ち声掛けをしている。記録、個人情報の取り扱いについては細心の注意を払っている。 | 利用者は人生の大先輩であることを常に意識して、なれ合いにならないように、しかし、他人行儀にもならないように職員はお互いに注意し合っている。呼び名はどのように呼んで欲しいのかを本人に聞いている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個々の状況に合わせ、出来る限り本人の意思や希望に添える様支援している。職員での対応が難しい時は家族に協力していただいている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の個性、生活における希望、個々のペースを大切に、自己決定の下日常生活が送れる様支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 髪が長い利用者は職員に編み込みをしてもらったり、気分によってはマニキュアを塗ったり、思い思いのおしゃれを楽しんで頂ける様支援している。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メニューの決定、買い物、下ごしらえ、味付け、盛り付け、洗い物等、調理全般で利用者の能力に応じたお手伝いをしていただいている。 | 食事とおやつの内容はユニットごとに異なる。利用者は自分の仕事を心得ており、それぞれに手伝って役割を担っている。職員は嚙下に不安のある利用者にミキサー食を介助しながら、自分も横で食事している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者に合わせた食事形態で提供している。水分確保が自分でできない利用者は、職員が一日の摂取量を確保出来る様記録に残し、申し送りを徹底して水分確保に努めている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 週一回の訪問歯科診療時に担当医から申し送りを受け、指示の元利用者個々に応じた口腔ケアを支援している。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 職員全員が個々の排泄パターンを把握しており、時間ごとのトイレ誘導や声掛け等で排泄の失敗を減らせるように努めている。実際に紙パンツから布のパンツに移行できた例もある。 | おむつのメーカーと連携して、利用者の状態に応じた尿取りパットをあれこれ試して、夜はゆっくり休めるように、利用者に適した製品を模索している。夜間にポータブルトイレを利用する人には、センサーで動きを察知して職員が見守り、安全と自立に向けた支援を行っている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | バランスの良い食事の提供や水分量の確保、運動を促すなど取り組みはしているが、それでも便秘になってしまった利用者に対しては提携の担当医の指示で緩下剤を使用するなどして対応している。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日によって職員の配置人数に限界があるので必ずしも希望通りとまでは行かないが、必ず利用者の意向を聞きバイタルチェックを行い、ゆっくり丁寧な入浴を心がけている。 | 週に2~3回入浴している。入浴を拒否する利用者に対しては職員や時間を替え、一番風呂が好きな人には一番に誘導している。また、日によって入浴剤を替え、楽しく入浴できるようにしている。重度の介護を必要とする人には職員2人対応で、ゆっくり安全に入浴支を援している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 時間にあまりとらわれることなく利用者個々の習慣や体調を考慮して休息の提供をしている。また、昼夜逆転にならぬよう生活リズムにも配慮している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が利用者の服薬内容、目的を理解しており、服薬時は必ず職員が関わり、確実に内服して頂ける様支援している。また、利用者の症状の変化には常に気を付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者が楽しめる様な「好きな事」を探し、それを活かし時には外部のボランティアの方にも協力していただき張り合いのある生活が送れる様支援している。 | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | スーパーが近い事もあり、食材の買い出しは日替わりで利用者と職員で出かけたり、外出の希望があれば出来るだけ希望に添える様努めている。 | 桜やコスモス等、季節の花見には弁当をもって出かけている。毎日の買い物、天気の良い日は近くの公園に出かけることもあり、できる限りホームの外へ出かけるようにしている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭の所持については認知症の症状である混乱や利用者同士のトラブルを防ぐためにも、本人、家族の承諾を得て職員が金銭管理をしている。また、物品購入は利用者の希望に添える様努めている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望された際にはその都度対応している。基本的に手紙や電話は制限していない。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとの貼り絵を苑内に貼ったり、利用者の作った日めくりカレンダーを飾りなごめる雰囲気作りに努めている。 | ホームの床にカーペットを敷き詰め、足へのあたりをやさしくしている。外に出られない日は、L字型に長い廊下で職員と手をつないで歌をうたいながら歩いている。トイレ、浴室は職員が複数で介護する場合でも十分な広さがあり、清潔である。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファ等、リビングの中でも利用者個々の居場所が決まっている様で、それぞれくつろげる空間になっている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自宅で使われていた家具や人形、写真等、利用者の馴染みのものに囲まれて生活出来る様支援している。 | 居室には好きな韓国スターの大きなポスターが複数貼られ、また多くのぬいぐるみに囲まれていて、自分の部屋として過ごしていることが伺える。天窗にはすだれを張って夏の強い日差しを防ぎ、居心地よく過ごせるように工夫されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | リビングからトイレに行くまでに目印を作ったり建物内部と玄関の間にホームセンサーを取り付け、利用者の安全が確保出来る様努めている。 | | |